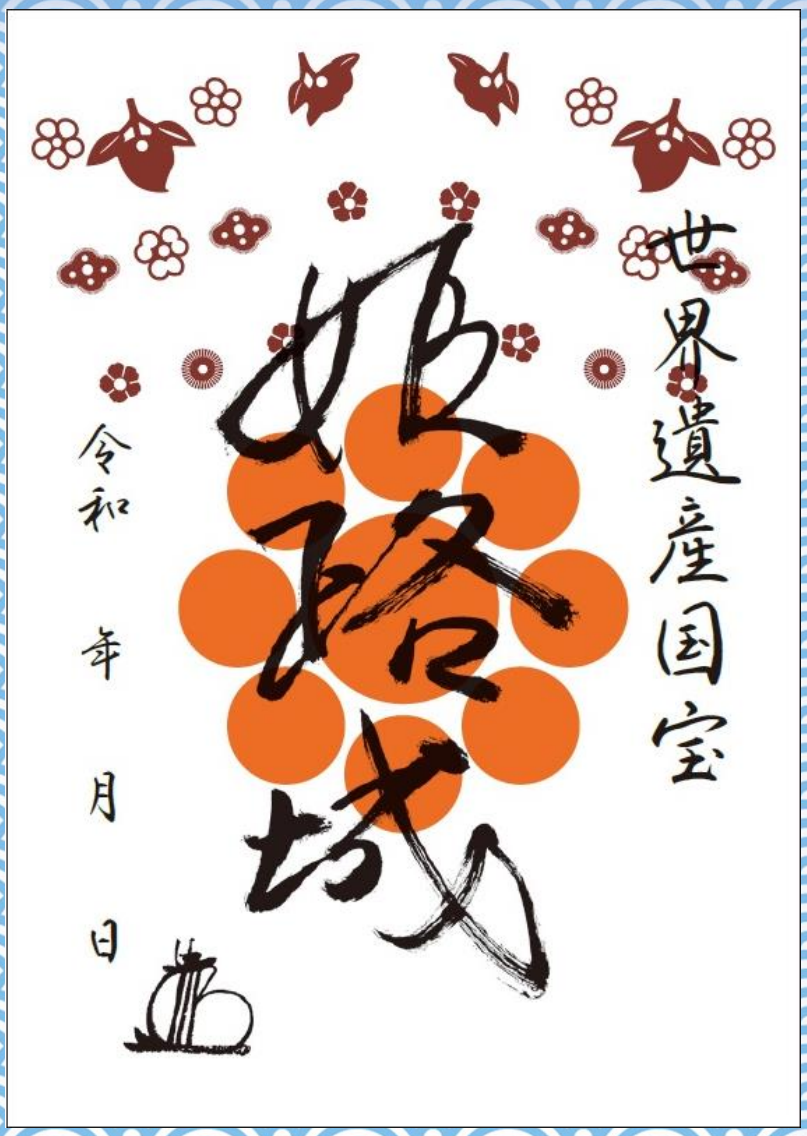
新デザイン姫路城　御城印　販売！



販売期間：令和4年2月1日（火）～令和5年1月31日（火）

料金：1枚300円（税込）

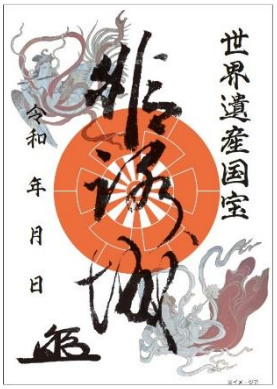
販売場所：姫路城売店（姫路城出改札横）

販売時間：9:00～17:00

さらに！

1月までの御城印を2カ月販売延長！

販売期間：令和4年2月1日（火）～3月31日（木）
料金：1枚300円（税込）
新型コロナウイルス等の影響により、姫路城に行くことが出来なかったとのお声をいただき、2ヶ月間販売を延長させて頂くこととなりました。
数に限りがございますのでご了承ください。



姫路城　御城印について

姫路城ではこの度、令和四年二月一日より新たに、**奥平松平家**をモチーフにした御城印を販売させて頂くことになりました。

奥平松平家について

徳川家康の外孫で、家康の養子となり松平性を名乗ることを許された松平忠明（まつだいらただあきら）公が興した家です。姫路藩主であったのは一六三九年から一六四四年の忠明公、忠弘公の二代です。藩祖でもある松平忠明公は江戸幕府の確立期にあたり、徳川一門として譜代大名の統率や軍事力強化による幕政の安定化に貢献した人物です。

家紋について

姫路藩主であった奥平松平家の家紋「九曜」です。

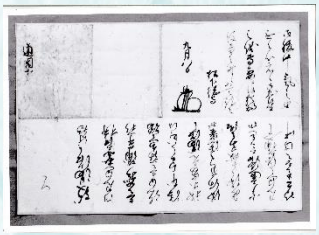


花押について

花押（かおう）は、元々は、文書へ自らの名を普通に自署していたものを署名者本人と他者とを明確に区別するため署名の代わりに使用されるようになった記号・符号です。使用している花押は松平忠明公が書かれた書状より抽出したものです。

その書状が『大阪市史』に掲載されており、大阪市立中央図書館大阪市史編纂所を通して所蔵者の寺田孝重氏に連絡。許可を得、使用させて頂いています。

松平忠明公は大坂冬の陣、夏の陣などの戦争で荒廃した大阪城下町の復興を進め、大坂が「天下の台所」と呼ばれるほど繁栄した基礎を築いたとされ、道頓堀の名づけ親であるという説もあります。大阪にも所縁の深い人物です。



文字について

高野山金剛峯寺の塔頭寺院である金剛三昧院の子院である中性院が松平忠明公の供養塔（墓所）の管理をされています。現在、中性院の住職を金剛三昧院の住職が兼務されています。そこで金剛三昧院の久利康暢住職に揮毫を依頼。頂いた文字を抽出し、配置しています。

かつて名だたる武将や大名などお殿様たちの家では、日本の総菩提所であると言われる高野山に供養塔や墓所を設ける慣習がありました。松平忠明公の供養塔（墓所）も高野山の奥の院にあり、その供養塔を金剛三昧院が管理されています。

金剛三昧院は北条政子の発願により鎌倉幕府初代将軍源頼朝の菩提を弔うために建てられた由緒あるお寺で世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成要素でもあります。

現在、令和4年12月末まで、土日祝に源頼朝、鎌倉幕府三代将軍源実朝の供養塔である国宝の多宝塔を特別開帳されています。

※「姫路城」以外の文字については既存の書体の文字を使用しています。



「金剛三昧院　多宝塔（国宝）」

デザインについて

松平忠明公のものであると伝わる甲冑「黒糸威二枚胴具足」の籠手の手甲部分にある切金模様をモチーフにデザインしています。所蔵者である忍東照宮、管理されている行田市郷土博物館に許可を得、使用させて頂いています。

黒糸威二枚胴具足は奥平松平家が明治時代を迎えた埼玉県行田市（旧忍藩）にある忍東照宮に伝わる甲冑です。松平忠明公が大阪の陣で使用したと伝わるもので、行田市郷土博物館が管理されています。





「黒糸威二枚胴具足」の籠手部分

【お問合せ先】公益社団法人姫路観光コンベンションビューローTEL：079-287-3655　FAX：079-222-2410
HP：http://himeji-kanko.jp　mail:info@himeji-kanko.jp